

2V-83

新育教  
特67  
83  
84

送以遞送免許

新  
報



號五第十第開新育教

日一月八年一十治明

目	教育者ハ必スル理
學ヲ講スヘシ	
コヌムソノ	
學問ノ木ノ説	
歐羅巴旅案内	
(前号の續)	
西班牙ノ部	
田舎者の學校咄	
し	
雜報	



始



社告

一 今般番客ノ御便利ヲ計リ紙幅ヲ縮  
ノ葉數ヲ増シ定價ヲ減シ候得共紙  
中ニ記載スル處ノ事ハ行數字數ヲ  
増シ候ニ付聊カノ増減アルノニ其  
實價ハ敢テ舊ニ異ナラス候猶後來  
御愛顧ノ程伏シテ希望スル處ナリ  
一 出納其他當新聞一切ノ事務ハ阪  
心齋橋筋二丁目四番地進取活版  
局ニ委託致候ニ付前金ハ勿論原稿  
共ニ來右ニ當ノ御差出シ可被下候  
一 今般多轉休載ノ改メ候ニ付テハ先  
前ノ規則ノ條款左之通改正ト爲尤  
此ニ改正セザル分ハ以前ノ通ニ候  
事

郵税申受候  
一 是迄一ヶ年前金或ハ半ヶ年前金御  
送致時ノ分ハ十四号ヨリ以下ヲ推  
算シ其郵税ニ應シタル前金ト見做  
シ不足ノ分ハ其前金ノ切レタル部  
ニ申受候尤計算上學務諸御役所向  
其他ニテモ御不都合ノ義有之候ハ  
本年十二月廿一日マテノ計算相  
立ヲ過剩ノ分ハ返上致候トモ差支  
無之候  
一 廣告ハ先前書籍筆紙ニ等ノ教育上  
必用ノモノニ限リ候處以來ハ先  
ノ規ニ通シテ何事ニモテ御引受  
可中御間御注文ノ程奉願候  
一 賣捌別冊ニテ改正致シ候間御所  
御望ノ御申越次御詳御相談  
可仕候

欠





此の木と培養するの只人民の精神を以て勉強忍耐にして終始目的と動  
 さす誠心誠意あつて常に撓まざる最良肥料其種を下すの既小母の体内  
 に孕めるときより始め漸々に培養し而して生る、や否先其軀幹の健康  
 に注意し先家庭に於て善き習慣をつけ少く發育すると先小學校に  
 移し此あて再び修正し五六年を経て再び中學に移し又五六年を経て大學  
 に移し常に怠たらざるとき廿年餘の後始めて生長して森々たる完全の  
 木とあるへし此の時日の間少しも怠ると死の盡の生るの或の技をど

培養法

らそ此の木の産する所の氣候寒暖に拘らず地味の良否に關せず只文明の  
 地にのみ生し決して野蠻な情ふる所に生せし其の始めの歐羅巴地に産し  
 又亞米利加に移し現今其尤多く産する所の此の兩州にして英佛獨等  
 諸國之人を争ふて培養す此の木を産する地の人を健康なり知識と益し國  
 を富し兵を強くす亞細亞ある舊來産せしものと培養法の善良あつたり  
 と以て少く發育すると死の或の枯れ或の萎て生長せざりしか近來日本  
 に移植さるの稍生長するが如し然れども其花葉と培養せんとするもの  
 を多けきとも其葉實と得んと欲する實益家を甚稀なり此の木を培養す  
 ものを教育者といふ



教育

数学

地学

文学

社会学

国文学

小文学

文学

文学

文学

文学

折きて全死ものとあらず其培養法其難し昔孔子の園に三千株も培養せしに生長なるものと七十二株のみありしと以て其の難を知るへ記さる

形状及び性質

木の形状の培養の法により一様ならず其技の形必と三様の外も種々高尙あること理に属し其次ハ科學に属し其次ハ技術に属す何れも其技により性質の千種万態あり心理に属するもの之無形あるを以て此の葉を結ぶとめんとするの頗る難し其球の如く形の實の之を學名に數學と呼び人の頭の形比ものむふれと骨相學と稱せ科學に属するはハ理學化學或は家の日月の如き實を天文学とし地球の如くは地理學とす又技術の技に結ぶ處の如きと建築術と彫刻術とす其三技に結ぶ處の實の性質を量るへうとせ皆一々何學何術と稱し決して同物なり此の葉實の皆培養肥料の如何より種々母變するあり其實の堅くして之を食ふときは碎く能くさるべしと雖とも忍耐して嚼むときは其味微妙にして忘る可らず勉強忍耐から人の飲食を食へとも怠惰の人の一葉とも食ふ能くす故み味をしめて排斥するものあれとも實の怠惰にして味の甘くふるまで食ふことさるべしあり其木の形ちの畫にて知るへし

伐木の時及び性質

伐木の時の前の葉の成熟とさる時に去る若し未だ成熟せざると死に伐るときは何の用にもあらず田舎の小學教師或は下等代官人位にして培養に費したる程の利益あり凡生れてより廿五六年を経るに死より四十五六年位を適度とす

又木質と其培養および是亦一様ならず總体善く培養せざるに其精神堅固にして火も水にも能く堪へ假令枯るも其餘香を數千年を経るも滅せずして益盛んあり又此の木は年代に拘らず勉強さへ怠りさるる生長の度計る可らず彼の外長部の木の年々の輪層と益す如きにあらず又此の色澤と恩澤とて後世まで其恵を被るニユートン及びヒワットの如し又其香と功績と稱しワシントンの如く何れも青史に存して數千年と経るも消滅せず

木の用

此の木の用實に測る可らず其能く成熟たると或は政事法律宗教理學天文化學必學至學農學工業製造航海陸海軍書學彫刻音樂商法製藥詩學數學經濟等より苟くも人間日用百般の需用に供へたもの、用たらざるを乏而して此の用とあらずの大小の必そ其成熟の良否勉強の強弱精神の誠不誠によらざるあり今日日本の如くも政府より下土方に至るまで多少此の木

と用ひさるるあり  
 人の此の木を伐りて用ひるさむと欲するや願職因循怠情あると死を培養  
 するも成長せむ伐るよとも成らん今此の園は斧をもてる人其の木を枝  
 の繁け死を以て何きの枝を伐りて何れの章を取らむと考ふるあり此の木  
 の始め何れをの枝を伐らむと目的と定めさらん願を以て一心其目的  
 たる枝のを切り落すべし此の木は甚堅きものあるを以て半にして  
 斧の缺けたるときは幾度も研ぎて切るべし一技を伐らぬに倦みて他技を  
 伐らむと思ふへかす又堅くして斧の刃の缺くるを恐るへらす此の人  
 の如く考へ居るも技の自然に折れて落るものあらす又人は頼むも人の伐  
 りさる技の我用を考へるあらす又其の大用を考へ棟梁の瓦材を得むと欲  
 せど大幹の教育といへる所より伐り取るべし一葉一技の登り棟梁の材と  
 考ふを得へけむや

歐羅巴旅案内  
 西班牙の都

家屋

西班牙の家屋の實は小屋とも稱すへき汚穢なるものあり或る時一貴人の樂  
 内者と共に出中を旅行せしに日も稍西の端に傾むき鳥も歸にかへるあり

前号の續き

とある村あたを望つて今宵の宿を求めんとあやしげなる農家の戸を音づ  
 れ中に内より誰かと答へて紙燭めきたる薪の細きに燭とともしつゝ出来  
 るといふも木強けり男にありける此の時貴人の宿りの事をとつちた  
 のむに心よく詰ひくいさ先内にいらせられよといふ人の厚死をさげに引  
 かされて引くまに内に入り家の模様と打ち見るに玄關とも覺しき  
 入口より床一面に藁を敷き坐る處と打過くれと家族のものゝ打寄る部屋  
 の内にいざけり此處を打過き奥の一間母誘ひ行はぬ情とこぼせる内に浴  
 の用意もあつるにや例の夜食(食物の部にあり)とまゐらせんさく持出る  
 ものを彼の蒸さる豚の肉と卵のまこれとも快よく打ち食ひていざ寐ませ  
 との案内につれ會釋とまつ座を立つと彼の男の屋根の下の小さなる窓  
 を指さして寐間と彼處にこそゆるく旅の疲を休めまへと早退さんどせ  
 るに予貴人の暫時とおし止め今宵も斯かる處に打臥すまよと尋ねられ  
 此男の答へけるやう然なま少しも御遠慮に及ひ申さず此の内新しけ  
 藁と擇みて寐まられたまへとさうに怪しむ景色をけれと貴人の痛く打驚  
 ぬる顔色見て言るに此の國に寐床といへるものゝあつるまよとあま  
 しの事母問ひけきと此の男の答ふるやうされと母て候我國母て我々如き  
 ものゝ生涯寐床に打臥えたるものこれなく又先代の祖父父母亦子供



等も遠く寝床といへるものゝ休またるふとあらず或は火燵の傍り或は版  
にて家畜のすちまをまきりて打扇のミと答へたりとのや

遊 娯

西班牙は小年れ好める遊娯之舞踏にて寺院の近傍の草青々たる所に必  
す此の練場あり若きも年老いよるも皆此の場にあつまきて踊りもまつ又  
賭博等とあてぬと遊べり又西班牙人モ三味線(キタル)と弾くまとい好みて  
弾きていふ謠ひ流ひての弾きさも樂しむ有様あり夏の夕暮街衢を道遠する  
ときと夜のさくるまて家々又三味線の音の絶ゆるひまあり人民と多く遊  
情にて物讀と或は職業を執るるを其稀あり

西班牙人と只遊情のミからす其猛惡殘忍ある性あり彼名高の死牛闘とて越  
後の小知谷は其昔しありと聞にあふもまさりて最とも猛惡ある法方にて  
怒れる牛と騎馬武者の闘ひ勝ちて殺すみそ其猛惡ある性の程を知られけ  
る(是より愈牛と人の闘かをも紙数限あきむ次号に譲る)

田舎者の學校觀志

何所の田舎だの百性う五六人山あり里へ出て来て學校の建築を見て魂消  
て咄すにハハ、一之の本願寺様の掛所カナイヤ之の先達て戸長殿より度  
々やあましくいふとれてソレ大立と賣さ錢と皆吐死出た學校建築費をや



らへんち死ひしやうて出来た學校よハ、學校再行くとドケあるのウオラ  
 色知らぬ、か長とんの云ふ母の賢ひ人間をふしらへる處だろ、んだそき  
 きの錢を出して、もい、がま、横の方身無く、鬼の刺け、の、とあれ、西洋風  
 の、し、ヤ、く、長とんの家、前を、踏、て、通、ると、内、に、い、戸、長、とん、ら、し、き、男、の  
 ヤ、レ、新、築、の、建、築、を、言、を、た、か、り、天、朝、儀、の、御、趣、意、た、と、思、ふ、て、民、費、を、取、立、て  
 た、處、が、伍、五、千、兩、と、い、ふ、金、と、民、費、に、掛、け、ら、出、處、が、い、か、り、半、分、と、出、さ、せ  
 く、半、金、と、區、内、に、借、金、と、し、て、先、學、校、と、建、て、一、般、役、人、様、の、お、思、召、通、に、御、趣、意  
 を、奉、成、し、步、處、が、請、風、に、激、さ、れ、さ、か、何、だ、の、半、年、も、立、つ、や、立、ま、お、壁、と、落、る、屋  
 根、と、滑、る、器、材、の、何、處、か、出、る、の、又、立、派、を、西、洋、道、に、様、儀、の、衣、服、と、落、る、履  
 子、器、材、も、書、籍、も、皆、さ、さ、き、ひ、も、の、で、い、ま、る、で、御、所、の、お、庭、へ、乞、食、が、住、ふ、や、う  
 か、も、の、だ、レ、今、度、に、役、人、様、に、跡、の、御、趣、意、を、仰、お、と、を、と、さ、る、ま、い

雜報

○學社の轉宅にて管帳より祝詞等金玉の名文御惠贈の處御承知の通紙幅  
 を締めをそし出すへきものも休刊あり後を居り何分場所がありません故  
 右の名文と實藏へ秘藏致去置記塾社の實物も致し万世に永存の目的も付  
 諸君もしるし御取柄遺育上必用の玉文を御授書願知  
 ○管地もね役人様のよりのか人が開き歩のう知らるゝが大分教育は錢と

出そふとを惜しむるものも、その教育の開けよといふ証據を利泉町の私  
 立小中(當地に小學の私立をクッナー校)培根學校と大坂師範學校卒業生より  
 よりて立てたので學費と少々餘計掛るか先生がよく教育の行進を、から生  
 徒の數も二百人に近死よ、又府下の小學で第一等ある安土町の小學に  
 てさげそふ盛んなと聞さら此の校長も同大坂卒業の丸川貫一丸毛兼造磯  
 田眞夫の三先生の三編對が居るからとソレ見さまへ善い先生たと教育  
 が居るから斯う盛にふるのて丁度工其事と善くせんと欲せぬ必ず先づ其  
 器を利もと同じ道理にて先生のい、のを置かぬ學校ととんち大工の  
 亦のかけの、踏、て、仕、事、を、と、同、し、ま、ど、を、能、く、出、來、る、さ、め、し、と、あ、り、ま、せ、ん  
 ○鹿兒島の學監取締が長さんぶりの咄しよ此の頃、進々學校に着手ま  
 て卒業調導と招かまと思ひ、縣廳へ願ひ出しよ所かお役人様の仰に、お調導  
 を願ふよと書籍器械の整備をあげき、バ、む、た、お、事、だ、と、御、説、論、が、あ、り、ま、し、た  
 との、咄、と、聞、死、ま、し、よ、お、是、と、何、の、の、間、違、と、思、え、れ、ま、を、馬、や、牛、と、飼、ふ、あ、い、れ、林  
 が、き、け、き、と、遊、へ、せ、ま、ん、が、調、導、さん、と、何、も、器、材、や、書、籍、を、食、て、生、き、て、居、る、も  
 の、さ、の、お、の、か、ら、何、も、整、備、せ、ぬ、と、て、雇、へ、ぬ、儀、と、あ、り、ま、す、ま、い  
 ○東京の内教新報先日銀座の新者町五番地へ移轉し、さう、讀、瓦、室、の、鏡  
 や、定、み、た、る、所、に、て、猪、一、層、盛、大、に、赤、り、又、本、月、二、日、金、曜、日、よ、り、以、後、毎、周、火、曜

金曜の兩日の發兌にて体裁も改まると一枚摺をやめて本に綴ち一部の四錢十部の前金が三十六錢と廣告ありましよ一枚摺をやめると本に綴ち日を發兌でなく定期發行よりありするの何より結構皆さん早く買ふて御覽を益にやることと保証致し升

○紀州の實學社に建てたる粉川の猛山學校にての演説か盛みて和歌山より多分を費用を掛けて千田一十郎下村房郎先生ふとを始め論客と招はる演説があるよし又兵庫の相生學校ふとも毎月二日と十六日お雙社の岐と有名なる論客杉山重義君を招き演説のあります午後七時ふとあつた隨分涼さふてら當地うとも聞え行くも月夜ふとにむ至極妙たど咄した人のあつたます又同學校の教員同區の區長取締等の盡力にく斯くまで篤志にわざく遠方よと論客と招くなると是ての定めく平日區内の教育を賑かし行届く事と思これまを

○脚氣と東京か多ひと思ひの外當地及び近傍にも學校生徒に澤山あつたまをかゝ寄宿のあつる學校と校長さんや監事さんの御注意の肝腎是迄もあつたかりのあつたけれとも

○兵庫の鳩居堂の出板中條澄清先生の著されたる代數學教授書と愈々昨日まど發賣にあつたましよふこととむお受合

稟告

讀岐中條澄清譯述

代數學教授書 全八冊

但シ卷之一六月中發兌

一此ノ書ハ代數學ノ教本ニ供フル者ニシテ諸課ノ順序解説等ハ專ラ我生徒ヲ教授スルノ便宜ヲ主トシ正員ノ變化ハ素ヨリ各法ノ原理等ハ最心切ニ解明シ新撰ノ問題ヲ載スル極メテ多ク毎卷ノ後卷ヘ復習ノ題ヲ附シ尙教師ノ留意スベキ要件ヲ載セタルハ算數學ヲ授クル課書ニ於テ欠クヘカヲサルノ良書ナリ

本書各卷刻成毎ニ神戸教育新聞

東京日々新聞内外教育新聞大坂新報大坂日報、五新紙ヲ以テ廣告スベシ

神戸相生齋北諾

發兌書肆 鳩居堂

大坂心齋橋南一丁目 松村九兵衛  
東京大傳馬丁三丁目 東生齋次郎  
西京寺町錦小路下ル 田中治兵衛

内田尙長編

小學修身口授 近世英專叢談 第二集

順次出版

右ハ小學修身口授ニ尤妙ナル書ナリ請フ愛顧ヲ賜ヘ定價甚廉一冊七錢五厘

出版人大坂心齋橋第一丁目 池上儀八

# 綿 氈

一名綿團通

一右綿氈ハ弊舖ニ於テ發明スル所ニシテ世上有觸レタル綿氈ノ比ニアラズ最良ノ綿絲ヲ撰ミ最精ノ染料ヲ用キ其組織ハ堅紫ニシテ使用スルニ從テ益々光澤ヲ發生シ又暖暄ナルハ尋常氈ノ如キニアラス世上君子購求シテ其功用ヲ得知シ玉フヘシ

大坂府下第三大區六小區西長堀北通一丁目廿一番地

本局發賣所 **進取社織工局**

大坂府下第二大區六小區心齋橋筋五丁目四番地

賣捌所 **進取社印刷局**

## 社 告

一第十四号之義ハ意外ニ愛顧ヲ蒙リ既ニ賣切候所猶陸續注文ニ付只今手數致居候間少々手間取レ可申候段御斷リ申上ル

教育新聞改正定價

一部 三錢五厘  
五部 十四錢  
十部 廿五錢

府外定價郵稅共ニテ

一部 四錢五厘 五部 十九錢  
十部 三十五錢  
發兌日毎月一ノ日ニ付一ヶ月

假本局 大坂府下第二大區心齋橋筋二丁目四番地 **教育新聞社**

賣捌所 大坂府下第二大區心齋橋筋二丁目四番地 **進取社活版局**

編輯兼印刷 天野 皐

# 終